

私を魅了したオールオンフォー

はじめに

学生時代、母校で口蓋裂の患者を痕の残らない最高のテクニックで治す先輩を見て、歯科医師とはその技術で患者を幸せにすることができる最高の仕事であると感じた。私でなければできない、そんな技術を身につけたいと思い、卒後すぐ、勤務医として働く病院で、自ら志願して総義歯専門外来でエキスパートを目指した。しかし、10年以上毎日取り組んだが、難症例の数々に翻弄され、私はこの道では患者を幸せにできないと悟った。すでにライフワークは無歯顎の患者の苦痛を取り除き、機能を回復させることと決めていた。その一助になればとインプラント治療を学び始めた。数年後、無歯顎のインプラント治療に取り組み始めたが、実際に治療が可能な患者は少なかった。その侵襲の程度、費用、治療期間など多くの問題が解決できなかったからである。

無歯顎の患者にもっと良いインプラント治療はないかと考えても答えがでない毎日を送っていた。ある日、「All-on-4」という治療の発表を知らせる英文の手紙が、ノーベルバイオケア本社からカネバ社長のサイン入りで送られてきた。長いインプラントを斜めに入れてあり、自分には無理と思い忘れていた。

2005年に、リスボンの講習会参加の誘いを受けた。かの地はその2年前に、母が急病で倒れ、救護のため11日間滞在した思い出の地だった。適切な救急処置のお陰で無事帰国できた母の代わりにお礼に行きたいと思っていたところだった。すぐ参加を決めた。クリニカマロ（現マロクリニック）で開かれたオールオンフォーの講義を聴くうちに、これこそが私が探し求めていた無歯顎の治療法であると強く感じていた。同時に、入れ歯の不調を訴える無歯顎の母にも、この治療法ならばできるかもしれないと考えた。当初、リスボンで手術をしてもらう方向で検討したが、体調の関係から、無理ということになった。そこで、私が施術するしかないと決めた。半年後、リスボンへ単身研修に行き、外科から補綴までを徹底的に学んだ。補綴物もクリニカマロで作製してもらうルートを作った。

帰国後、オールオンフォーの治療システムを導入し、治療を開始した。75歳の母に1日で上下のオペをし、同日即時荷重をした。手術は成功し、5年後亡くなるその日まで、トラブルなく機能した。なんでも噛める、歯がとても美しいと人に言われて喜ぶ母の姿は私の誇りであり、私が役に立ったと思える瞬間だった。

オールオンフォーは当初私には無理と思えた治療法だったが、現在では当院の治療のほとんどを占めている。不思議だが、これは私がオールオンフォーに魅了され、母に導かれて歩いてきた道なのだと感じる。

このオールオンフォーという治療法がもっと認知され、多くの苦しんでいる無歯顎の患者に「新しい歯、新しい人生」を楽しんでもらえることを心から望んでいる。本書が、患者のためにオールオンフォーを学ぶ人の一助になれば、これほど嬉しいことはない。

2012年10月

木村洋子